

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 8月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200330		
法人名	株式会社 メディカルケア		
事業所名	ケアホームなかそね		
所在地	高岡市中曽根2374番地		
自己評価作成日	平成28年6月6日	評価結果市町村受理日	平成28年9月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山県富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成28年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅内に飛騨高山の古民家風に建てっており、地域の住宅に馴染んだ佇まいとなっている。近くには公園や商業施設があり、天気の良い日には散歩に出かけたり買い物に行く事が出来る。又、小学校の生徒さんが気軽に立ち寄って、いつでも遊びに来て、地域ぐるみで支え、安心して過ごして頂ける支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所には、近くの小中学生が気軽に訪れて、折り紙やボーリングゲームなどを楽しみ、笑顔で交流している。また、職員は、テラスに出での洗濯物干しや、食事の下ごしらえなどを、利用者と共にやり、張り合いを感じてもらいながら、利用者一人ひとりの日々の暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

ケアホームなかそね

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念の唱和を行い、職員一人ひとりが理念を理解し、日頃のケアに反映されているか職員で話し合い、実践に繋げるように努めている。	理念を、日々の支援の中で活かせるよう、理念をもとに15項目のモットーをつくり、申し送り時やカンファレンス時などに確認し、理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の総会、納涼祭に参加したり、小学校の卒業式、入学式、運動会にも招いて頂く。地域の獅子舞見物、ホーム主催の納涼祭にも参加して頂き、地域の方と交流を深めている。又、民謡等のボランティアの方々にも来所して頂いている。	事業所の納涼祭や文化祭に地域の人達に参加してもらったり、小学校の卒業式などの招待を受けている。そのような中から、小中学生が気軽に遊びに来てくれるなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の方の理解を得てもらう為に、小学校、老人会の住民に向け、認知症サポーター養成講座を開催している。認知症相談窓口を設置している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、利用者様の家族、老人会、地域包括支援センターの方に来て頂き、利用者様の状況、ホームでの日頃の取り組みを報告し、家族様の意見や要望について話し合い、サービスの向上に活かしている。	参加メンバーの老人会代表からは、地域の変革を話してもらったり、地域包括支援センター職員からは、行政で行う地域支援について説明を受けるなど、会議での意見を事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市町村に提出している。また苦情や問題が発生した際には、即日市町村に報告している。市町村で行う研修会に参加し、協力関係を築いている。	苦情につながりそうな事例を市の担当者に伝えたり、市主催の「地域との関わり」の研修会などに参加し、情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を深める為に社内研修を行っている。言葉の拘束にも配慮しているが、気付かないうちに行動の抑制の言葉遣いをする場合がある。職員同士気付いた時は、その都度注意し、意識を高めている。玄関は朝7～20時施錠せず、自由に入出入りが出来るように取り組んでいる。	利用者一人ひとりのADL(日常生活動作)を把握し、転倒などの恐れについて、職員間で確認し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。ただ、利用者の安全を優先するあまり思わず大きな声で、行動を制止してしまうことがある。	マニュアルを作成し、研修を行って身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいるが、言葉による抑制について学び合い、日々のケアの中に活かしながら、抑圧感のない暮らしの支援を行うことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないように、入浴・トイレ誘導時に身体の観察を行っている。不穏時等には無理矢理の介護ではなく、その人に寄り添う介護をする。自分のケアを見直す為に定期的に「接遇について」の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関して学ぶ機会はあるが、職員は理解はしていない。全員が研修を受け、理解が出来るようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を説明する時、不安、疑問点に分かりやすく答えているが、一番の不安は認知症が重度になっても継続できるかという点にあり、ホームでは終末期まで過ごして頂けるので安心して下さいと伝える。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族様の声が聴けるような環境作りをしている。運営推進会議に出された意見や要望、また面会時に伺った要望等をふまえ、職員とも前向きに受け止め、サービスや運営に反映させていきたい。	毎月発行の「なかそね通信」で日頃の様子を家族に報告したり、家族の訪問時や文化祭などの行事参加時に、意見や要望を聞き、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、その都度管理者を通して代表に報告されている。月1回の幹部定例会、週1回のカンファレンスを行い、現場で解決できない事は速やかに代表に伝え、報告、連絡、相談が円滑になるように心がけている。	管理者は、毎週のカンファレンス時などに、職員から意見や提案を聞き、その都度解決につなげたり、幹部定例会の場で、法人全体で対応策を話し合い、職員の意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は24時間連絡が取れ、その都度適切な指示があり、不安なく安心して仕事ができる。勤務時間や雇用条件を配慮したり、希望休も取り入れ、働きやすい環境が整えられている。各自が向上心、やりがいを持てるように研修参加、その人に合った役割を配慮して頂いている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のホーム内研修、3ヶ月に1回の全体研修を実施している。外部研修にも数多くの参加をさせて頂き、その後の伝達研修を行っている。職員の質を高め、個々の能力に沿ったレベルアップを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加する機会があり、同業者との交流を図ってサービスの質の向上に努めている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにはセンター方式を活用し、本人との関係作りに職員全員で取り組んでいる。慣れない環境に戸惑うことはないか観察し、馴染みの関係となるように本人の要望等に耳を傾けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の環境が変わっても、本人は不安を感じることなく安心して過ごして頂けるよう支援している。また、本人、家族様の意見や要望をお聞きし、週1回のカンファレンスで職員で話し合いを実施し、家族様との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の意見を聞き、困っている事、希望している事を受け止め、本人の思いに沿ったサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中を共に生活する仲間と出来る事、調理、洗濯、掃除等を職員も交え、生活を支え合う関係を築いている。又、利用者様間のトラブルが起きないように気配りを忘れないように行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連携を図り、話し合いをしながら支援を行っている。本人の病院受診や外出、外泊が可能な家族様には継続して頂き、本人との絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの主治医への診療、美容院、床屋等変えることなく、支援していく。また今までの生活背景やその方が暮らしていた地域との関係を断ち切らず、いつでも気軽にホームに来て頂けるように配慮している。	新湊放生津八幡宮への初詣、新春の左義長など、利用者の思い出の場所や行事などに出かけている。また、友人の訪問があり、居室で談笑するなど、馴染みの場や人との関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格等を考慮し、食事の席を配慮している。レクリエーション、体操等1日1回は利用者様同士と一緒に活動し、孤立しないように関わり支え合う支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、本人が落ち着く場所が決まるまで相談に応じる。その方の状況に合った施設や次のサービスへの紹介を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、利用者様の動きや表情、会話など日常の関わりの中から、一人ひとりの思いを聞き、週1回のカンファレンスを開催し、質の向上に努めている。	利用者と共に日常生活を送る中から、様々な場面で交わされる会話や、何気ない仕草などに留意し、本人の思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、今までの生活歴を把握できるように努めている。また居室に自宅で使用していた馴染みのものを持参して頂き、落ち着いた環境で生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録の中で生活リズムを把握し、一人ひとりの睡時時間、排泄時間等の毎日の習慣をセンター方式に記入し、出来る事、出来ない事を自分の力で見極めて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のカンファレンスでは、本人の状態や家族様からの要望等をもとにモニタリングをし、一人ひとりの支援方法を話し合っって介護計画を作成している。	毎週カンファレンスを開き、利用者の心身の状態を確認し、支援の方向性を話し合い、家族とも相談しながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの介護経過記録を時系列で記入したり、三測表も記入し、毎日の変化を見る事が出来る。カンファレンスには、日々の様子を振り返り、気付いた事を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに対応し、職員と一緒に食材の買い物に出かけたり、本人様、家族様の希望があれば、外出や外泊に積極的に対応し柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、小学校の行事に積極的に参加している。地域のボランティアの方や、友達に来所してもらったり、馴染みの美容院を利用して頂き、地域との関係を断ち切らないように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様が安心して適切な医療が受けられるように、突然の体調不良時にも職員が付き添い、かかりつけ医に受診に行き、医師と連携を行い、家族様と協力して支援している。	利用者や家族にかかりつけ医を決めてもらっている。事業所の協力医への変更を希望し、訪問診療に切り替える利用者もおり、安心して受診できる体制をつくっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に日々の様子を伝えている為、相談やアドバイスをもらう事ができる。代表が看護師である為、助言を頂くことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームよりサマリーを作成し、安心して入院治療できるように病院と連携を取っている。入院中は訪問し、退院へ向けた支援を行っている。退院時のカンファレンスも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に看取りまで行える事を説明し、終末期を迎えるにあたり、家族様と主治医に相談している。指針を説明し、納得いくまで話し合う。職員全員で看取りの統一のケアを行い、安心して終末期を迎えられるように取り組んでいる。	日々の支援の延長線上に看取り支援があると考え、本人の思いや家族の意向に寄り添っている。また、医師や訪問看護サービスなどと連携し、方針を共有しながら、重度化や看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、消防署にて救命講習を受講して、急変や事故発生時に対応できるように訓練されている。又、ホームにはAEDの設置、救命カートの設置がされている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災について2ヶ月に1回自主避難訓練を行い、半年に1回消防署立会い訓練を行っている。乾パン等の非常食は常備されている。今後、地域の方と協力して行っていきたい。	職員全員が避難方法を身につけるように、消防署立ち合いの年2回の訓練のほかに、2か月ごとに自主訓練を行っている。地域の人達にも参加をお願いしているが、まだ、協力体制は整っていない。	火災想定避難訓練などに、地域の人達にも参加してもらえるよう、地域に働きかけていくことが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーや羞恥心に配慮し、人格を尊重した支援を行えるように周知しているが、守れない事がある。言葉の乱れがあれば、その場で職員同士が注意し合ったり、接遇の研修・勉強会も定期的に行っている。	職員は笑顔で優しく接し、利用者を敬う気持ちを大切に支援している。ただ、時には、入浴や排泄支援時に、安全に留意するあまり、利用者の羞恥心の配慮に欠けることがあるので、職員同士で注意し合っている。	日々の支援の中で、具体的な事例を職員間で話し合うなど、共通した認識のもとで、課題の改善につなげることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月1度の外食を楽しんで頂き、自分の好きなメニューを選んで頂いている。要望があれば職員と一緒に買い物に出かけ、自分で決めて頂く。押し付けのケアにならないように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者様のペースに合わせ、一人ひとりの要望に合った対応をしている。利用者様優先の業務を行うように心がけてはいるが、時々業務優先になっている事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容師の方にホームに来訪して頂いている。又、入浴後の着替えも本人の好きな服を選んでもらう。利用者様には、若く、美しくあって欲しい思いで代表より化粧水を頂き、起床時・入浴時に使用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食事の盛り付け等、その方の能力に合わせた作業を手伝ってもらい、食事も職員と一緒に会話をしながら楽しむ支援を行っている。茶碗拭き、おしほりたたみ等も手伝って頂いている。	「一緒に」という理念のもと、利用者に下準備してもらった「ささがき牛蒡のきんぴら」などを共に作り、レクリエーションのことを話し合ったりしながら、食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量（1500CC）の確認をしている。食事形態は一人ひとりの体調、嚥下状態に合わせて提供している。夜間はいつでも飲めるようにお茶を準備している。夏は熱中症対策に毎日ポカリスエット200CC飲水してもらうように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。介助の必要な方には職員が行う。夕食後、義歯を預かり、歯ブラシ・コップ等は毎晩消毒洗浄している。口腔内のトラブルは歯科の往診にて治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、排泄への支援を行っている。夜間はオムツ対応でも、日中はトイレでの排泄が出来るように誘導している。カンファレンス等で話し合い、自立に向けた支援を行っている。	利用者別に排泄の記録をとり、排泄パターンを把握し、また、それぞれ様子などから、さりげなく声かけするなど、排泄の自立につながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日自家製ヨーグルト（R-1菌入り）を提供している。水分補給、腹部マッサージを行い、自然排便ができるように支援している。調味料には代表の手作りの塩糍4Kgを使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日々の暮らしの中で入浴が楽しみとなるように無理強いをせず、本人の希望、タイミングに合わせて配慮している。入浴しない日には足浴を行い、アロマオイルマッサージ、清拭を行っている。	本人のペースで着替え、体を洗い、ゆったりと湯船に浸かるなど、利用者の体調を見ながら、見守る支援に取り組み、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日布団乾燥機をかけ、ふんわりした布団で気持ち良く寝て頂けるように努めている。足元が冷たくて寝れない方には、湯たんぽを提供し、気持ち良く眠れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は誤燕がないように名前・日付を確認し、飲み込むまで見届ける。受診後、薬の変更があった時は、しばらく本人を観察し、状態に変化があった時は、家族様からかかりつけ医に伝え、再診を促す。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、塗り絵など得意な方は、作品としてホームの文化祭に飾っている。誕生会、お楽しみランチ、外食等は一人ひとりの希望を聞いて楽しんでもらえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はテラスで日光浴をしたり、庭の草むしりもしている。また、季節を感じて頂く為に家族に参加して頂き、桜のお花見、梅の花、夏は海、秋は紅葉を見にドライブに出かけている。初詣、左義長にも出かけ、普段行けない場所に出かけている。	日々の暮らしの中で、テラスに出て洗濯物を干したり、畑の様子を眺めたりしている。また内山邸で梅の花を愛で、高岡千保川でお花見弁当を楽しみ、温泉の足湯でリフレッシュするなど、季節ごとのドライブも楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に行ったり、ホームでの外食の時も本人の好きな物を選んでもらえるように支援している。金銭はホームで預かっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡して欲しいと要望があれば、職員が電話で話ができるように支援をしている。また、年賀状も自分で書ける方には宛て先を書き出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は古民家風の為、床や扉、テーブル等は落ち着いた色合いの物を配置している。フロアの戸を開けるとウッドデッキから庭に出ることが出来る。フロアには感染防止を目的に24時間空気清浄機が設置され、床暖房も完備され、居心地良く過ごせるような工夫がされている。	リビングなどは、利用者が落ち着いて快適に過ごせるような、照明、空気洗浄などに配慮している。ホワイトデーではクッキーをつくり、また、訪問してくれた小学生と折り紙を楽しむなど、居心地よく、和やかな雰囲気の共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファに座り、気の合った人同士が自由に過ごし、テレビを見たり談笑をしている。また中庭のウッドデッキに椅子を出して、一人でゆったり過ごしたりできるように居場所の工夫がされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳がひいてあり、ゆったりと過ごせるようになっている。使い慣れた家具やテーブル、テレビ等を持ち込み、家族の写真、馴染みの物を持参して、自分の部屋として居心地良く過ごせるように工夫している。	自宅で使っていた馴染みの椅子やテレビ、家族写真などを持ち込んでもらい、その人らしく過ごせる居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所からホール全体が見渡せ、利用者の様子が分かるようになっている。各居室にはフットライトが設置、ホーム内はバリアフリーになっている。廊下やトイレ等、手すりが設置され、夜間でも安心して移動ができ、自立した生活を送れるよう配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホームなかそね
作成日 平成 28年 9月 1日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいるが、言葉による抑制について学びあい抑圧感のない暮らしの支援を実践する。	日常のケアの中で言葉の抑圧感を感じない居心地の良い暮らしの支援が出来るように研修を行う。	毎日のケアの中で安全を優先するあまり行動の制止、言葉の抑制をしてしまう事がある為、お互いに気付いたら注意しあい、また定期的に話し合い実践して行きたい。	12ヶ月
2	35	火災想定避難訓練などに地域の人達にも参加してもらえるよう地域に働きかけて行く事が期待される。	普段から近隣の方との顔見知りの関係を作り、地域での協力体制を作っておく。	日頃から散歩をする機会を増やし、近隣の方と顔見知りになる事で、馴染みの関係を作っていく。毎月の行事に近隣のレストランへの外食や、買い物、地域のイベント（お祭り、小・中学校の行事など）があれば起案し参加していく。施設内では、日程を決め、誰でも気軽に遊びに来れるようなカフェを開き、地域の方との交流を深め、火災、地震、水害の避難訓練にも参加して頂くように努める。	6ヶ月
3	36	日々の支援の中で、具体的な事例を職員間で話し合うも、統一したケアがされず、改善されていない。	人としてのプライバシーの保持の意識を常に忘れないように努め、職員同志統一したケアを行なうように努める。	一人ひとりの利用者に対しての、羞恥心の理解、人としてのプライドや尊厳を守る為に、職員が介護される側の気持になり、自分達がされて嫌な言葉かけ、対応について、週一回のカンファレンスなどで意見を出し合い、統一したケアを皆で取り組んでいきたい。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

ケアホームなかそね